

令和7年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

岩手大学教学マネジメントセンター、岩手大学教務委員会

（責任者名） 山本 欣郎

（役職名） 理事（教育・学生担当）・副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和7年度から獣医学部となり新たなカリキュラムに変更され、修了要件は「データ分析演習（2年次前期・1単位）」を履修し、その後「統計的機械学習実践（2年次後期・2単位）」「生物統計学（4年次後期・1単位）」の合計3科目4単位を全て取得すること、としている。令和7年度はカリキュラム変更に伴い履修者はいないが、今後開講年次に履修することによって履修者は増加する見込みである。この学生の履修状況（履修申告から課題の提出等）については、本学が導入している Web Class（LMS）を通して、科目を履修している担当教員及び岩手大学教学マネジメントセンター並びに岩手大学教務委員会が把握することができるシステムとなっており、各授業科目の習得状況やプログラムの改善等について学内・学部内での検討・審議を行っている。
学修成果	令和7年度はカリキュラムの変更に伴い、本プログラム対象科目を開講していない。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和7年度は対象科目を開講していないため、授業アンケート等も実施していない。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	令和7年度は対象科目を開講していないため、授業アンケート等も実施していない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度から獣医学部共同獣医学科（定員30名）となり新たなカリキュラムへと変更され、本プログラムを履修できるように「履修の手引き」を介してガイドしている。なお、プログラム構成科目については専門教育科目と並行して履修可能な時間割を作成している。講義するスタッフであるが、令和7年度以降、本プログラム講義を担当する教員について全学的に手厚いサポートが得られている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムの修了生が卒業する令和12年度以降に、企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意して外部の評価を受けつつ、その結果を踏まえてプログラムの改善に役立てる予定としている。</p> <p>岩手大学ではNTTdocomo、岩手日報社などの企業と連携協定を締結して教育・研究を推進している。本学農学部共同獣医学科では、大部分（60%程度）の卒業生は民間（企業・伴侶動物診療施設・畜産動物診療施設など）に就職することから、企業等への卒業生アンケートの実施により産業界からの視点を含めた内容を取り入れていく予定である。また、卒業後の進路として「公務員」が毎年30%程度を占めることから、本プログラムの獣医学への応用について地元の岩手県農林水産部との定期的な意見交換を予定している。今後は、このような多くのチャンネルを通して、産官学の視点を含めた本プログラムのPDCAを推進していく予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>令和7年度はカリキュラムの変更に伴い、本プログラム対象科目を開講していない。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>令和7年度はカリキュラムの変更に伴い、本プログラム対象科目を開講していない。今後はWeb Class (LMS) による事前資料配付等の充実を図るとともに、急速に進展する生成AI等を、科目「統計的機械学習実践」などで取り上げることを検討し、本プログラムの充実を図ることとしている。</p>